

訂正

本誌第124巻第12号掲載の「第117回茨城小児科学会抄録」の演題10において、茨城小児科学会から訂正の申し出がありました。

以下に正誤表を掲載いたします。

p1773 (77) 演題10

誤	正
10. メチルフェニデート内服にて盗癖が出現した症例 松戸クリニック¹⁾, 茨城県立医療大学付属病院小児科²⁾ 中山智博¹⁾²⁾, 丸山博¹⁾, 大黒春夏²⁾, 中山尚子¹⁾, 渡慶次 香代²⁾, 中山純子²⁾, 新健治²⁾, 岩崎信明²⁾ 症例は9歳女児。8歳で小脳髄芽腫を発症し、腫瘍摘出術、放射線療法、化学療法を施行された。廃用症候群に対するリハビリテーション目的に当院に転院した。筋力低下、失調を認め、自立歩行は困難であった。チームアプローチ後、手すりを使用した歩行は可能となったが、失調や体力の低下は残存した。復学に際し、前籍校への復学が困難となり、前籍校と特別支援学校、当院との情報提供会議を行い、特別支援学校へ転校した。	10. メチルフェニデート内服にて盗癖が出現した症例 松戸クリニック¹⁾, 茨城県立医療大学付属病院小児科²⁾ 中山智博¹⁾²⁾, 丸山博¹⁾, 大黒春夏²⁾, 中山尚子¹⁾, 渡慶次 香代²⁾, 中山純子²⁾, 新健治²⁾, 岩崎信明²⁾ 13歳の男児。9歳時に注意欠陥多動障害（ADHD）と診断され、メチルフェニデート（MPD）が開始された。11歳時にチックが出現したため、当院を受診した。MPDを36 mg/日から27 mg/日に減量し、チックは減少したが盗癖が出現した。このためリスペリドン1.5 mg/日に徐々に置換した。MPD中止後2か月までは盗みたいという意思が突然湧き上がることがあったが、その後消失した。文献的考察を加え報告する。